

# 第5回宇治市観光振興計画策定委員会

## 会議録

日時：平成25年3月15日（金）午前10時～

場所：市役所8階 大会議室

### 次 第

1. 開会
2. パブリックコメントの実施結果および宇治市観光振興計画（案）について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他
5. 閉会

#### （資料）

- 資料1 「宇治市観光振興計画（初案）」に対する市民の皆様からの意見募集結果（事務局案）
- 資料2 宇治市観光振興計画（初案）に寄せられたご意見およびそれに対する宇治市の考え方等
- 資料3 観光シンポジウムでの意見集約およびそれに対する宇治市の考え方等
- 資料4 宇治市観光振興計画（案）
- 資料5 第5回宇治市観光振興計画策定専門委員会からの意見・提案

< 出席委員 >

坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学教授
森 正美	京都文教大学教授
神居 文彰	平等院住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会副会長
古賀 則行	平等院表参道商店会会長
杉本 貞雄	社団法人 京都府茶業会議所会頭
八木 一樹	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所会頭
林 啓志	京都府山城広域振興局農林商工部長
木下 健太郎	宇治市都市整備部長
中村 俊二	宇治市総務部長
松田 敏幸	宇治市市民環境部長

事務局：宇治市産業政策室商工観光課  
(株式会社グリーンエコ)

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画策定委員会名簿》順  
( 委員長 副委員長 )

## 【1.開会】

### 【事務局】

定刻を過ぎてまいりまして、皆さんおそろいではないですけども、ただいまから第5回宇治市観光振興計画策定委員会を開催させていただきます。皆様方におかれましては、お忙しいところをお越しいただきまして誠にありがとうございます。

坂上委員長ですが事故渋滞のため、少々遅れるとの連絡を受けております。来られるまでの間、山本副委員長に進行をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

通円委員、中西委員、中谷委員におかれましては、本日欠席のご連絡をいただいておりますので、よろしく願いいたします。それでは山本副委員長よろしく願いいたします。

### 【山本副委員長】

皆さん、おはようございます。事務局から報告がありましたように、坂上委員長が少し遅れられているようなので、私が進行を務めさせていただきたいと思います。

本日、皆様大変お忙しい中、お越しいただきましてありがとうございます。この委員会もいよいよ最終ということでございますので、本日最後までひとつご審議のほどをよろしく願いいただきまして、ここから開会をいたします。よろしく願いいたします。

## 【2.パブリックコメントの実施結果および宇治市観光振興計画（案）について】

### 【事務局】

《資料 1.2.3.4.5》の説明。

### 【坂上委員長】

申し訳ありません、遅れて参りまして。

パブリックコメント等のご意見を基にした修正内容についてご説明をいただきました。本日最後の会議ということで、皆さん方から最後のご意見をいただきたい。訂正の余地はまだまだ事務局としてはあるということです。気になるところ等ご意見をいただきまして、最終のまとめにさせていただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

では、どなたでも結構でございますので、いかがでしょうか。森先生から、この専門委員会からのご意見、シンポジウムを開催したところも含めて、今の原案についてのご意見等ございましたら、いかがでしょうか。

### 【森委員】

今週に入り専門委員会を開催しました。今皆さんのお手元にも配られている、さまざまなパブリックコメントを見ながら初案の修正案について議論をしました。要点録に少し項目を書かせていただいておりますが、パブリックコメント全体の印象として、やはり駐車場の問題に関する指摘が多いと専門委員会でも意見が出ました。しかし、具体的にこういうふうに変えればいいんじゃないかという結論までは至らなかった。特に観光の中心地である中宇治で、単に道を広げるであ

るとか、駐車場を確保するというだけでなく、全体の交通状況をどのように誘導するのかという、社会実験実施なども含めた観光に特化した形での交通政策を検討することは必要ではないかという話でまとまりました。

例えばJRさんもいらっしゃったんですけど、踏切の開閉であるとか、あるいは大型のバスやトラックに走ってもらう経路の情報についての発信であるとかバスの路線について、観光協会のほうに問い合わせがあれば、広い道に行っていただくように説明はしているということなんですけれども。まず、やっぱり自ら、こういうふうに道路を使っていただきたいということを発信していかないと、現状というのは変わらないだろうということでした。

あと、専門委員会に土産物の組合さんであるとか、旅館の方であるとか、当事者の方がたくさん入っていらっしゃる中で、パブリックコメントにもありましたが、メニューや商品開発などについて、具体的に手を打っていかないといけない。個店としてやっていくには限界があるのだけれども、採算性を考えていくと、行政主導というよりは、やはり民間の中できちんとそういうリスクもとりながらやっていくという積極的な取り組みがないと。今のままでは、なかなか来ていただいても、観光消費量が増えないといった課題は解決されないだろうということが、当事者の委員の方々の中でも強調されましたし、共有されたというふうに思います。ただ、具体的に何をするかというところまでは、まだ。

それ以外には、道の駅等の整備という意見も結構ありましたが、これはすごく意見がわかれました。つまり道の駅というのは、郊外の道路沿いで集客を目的として販売の流通拠点を地域に提供するというような趣旨でつくられているものなので、宇治のような街中で、むしろ個店への回遊性を高めるような、観光地としてのまちづくりをしなければいけないところに合わないのではないかと。逆に、そこにお客様が集中してしまって、なかなか個店、商店街のほうに誘導されないということも懸念されるので、拠点整備の関係と、まちの中での回遊性のというバランスの中で考えないと、いろいろ問題があるかもしれないというような意見がありました。

あと、これはすぐにやったほうがいいという意見になったのですが、JR奈良線の名称変更のご提案があって、それはそうだということがありました。JRさんとしては、奈良線という名称自体をすぐに変更するということはなかなか難しいとは思いますが、実は関西圏内のJR線で愛称がついていないのは、湖西線とあと奈良線ぐらいだと。だから、愛称については、すぐ複線化の動きと連動して早急にやったほうがいいと。やはり京都駅に立ったときに、宇治というものを目的地として明確にして、それ自体がPRになるような取り組みである、この愛称の変更というキャンペーンは、早急に取りかからないといけないのではないかと意見が詰まっていたし、すごく説得力のある意見としてみんなに共有されたと思います。奈良線の愛称によって、全国的にアピールするのと同じように、やはり京阪の圏内でも、宇治に来てもらうためにその出発地の中での、案内とかPRというのはなかなかできていないので、もう少しそういうものを強化する必要があるんじゃないかという意見が出ました。

シンポジウムについては、パブリックコメントを市民の方に関心を持っていただく1つの手法として、急遽市の方とも連携しながら、本当に皆さんにご協力をいただいて、試験的にやったものなんですけど、おかげさまで、登壇者を含めて130名ぐらいお集まりいただきました。あまり大きな教室がとれなかったこともあって、後ろで立ち見も出るぐらいで、大勢の方が詰めかけて

いただきました。もっと聞きたかったという意見をたくさんいただいて、すごく時間が足りなかったんです。それだけ思いをお持ちの市民の方が、これだけいらっしゃるということを目の当たりにできたというのは非常に意義がありましたし、ぜひ、そこでの意見を1つでも2つでも、今回の初案には組み込めないとしても、そのアクションプランを実施していく中で、きちんと受け止めて、具体化していかないといけないなという思いを強くしたという次第です。

以上です。

#### 【坂上委員長】

ありがとうございます。

今のことも関連しても結構ですし。いかがでしょうか。

#### 【八木委員】

観光連盟でございます。

まず今、森先生のほうからありましたJR奈良線の愛称ですけれども、観光連盟も常にそういう思いを持ってしまして、JR西日本の京都支店長さんにも個別にお話をさせていただいたら、地域が盛り上がりれば大歓迎というようなことでありますので、うちだけではあかんかもしれませんが、ぜひ沿線全部そういうのをつくってやっていきたい。私が兼ねてから思っていましたのは、その中で宇治茶列車を走らせるというようなことがいいかなと思っています。

それから今回、修正の中で非常に納得しましたのは、一番最初の修正の1の、市民の皆様が観光まちづくりに参加できるような仕組みづくりをするというようなことです。これは非常にいいかなと思っています。特にこの資料4の31ページのところに、計画の推進に向けた取り組みとなっていて、その中で宇治市民の人の役割として、そういうことが入れられるのは非常に大事なかなということです。

それと、その仕組みづくりの中に入れてほしいと思いますのは、観光事業者、観光協会、それから行政、市民ですけど、抜けている部分があります。それは、宇治市民じゃなくて、宇治市の中に従業員として、社員として来てもらえる方がおられます。事業者も、いわゆる観光関連以外の事業所があります。普通のものづくりの会社など。ですから、そういう観光関連以外の事業所の社員さんとか、従業員さんもどう巻き込んでいくか。そして農林業でお茶に関係ないところもあります。それから福祉、衛生の団体もありますので、ぜひ、この市民の役割の中でそういうところも巻き込んでやっていければ、本当の観光地づくりができるのではないかなと思っています。

それと、この計画の中で観光に関係のない事業所が、まずお客様にお茶を入れるとか、口コミで宇治の観光情報を流すとか、家の前をきれいにするとか、そういうそれぞれができることを、市民としてのかかわりの中で浸透すれば、さらにいいものができるかなと思っています。

今回パブコメの意見でいきますと、観光連盟も、ほかの市町村の計画策定にかかわっているんですけど、これだけ市民の方が具体的にご意見を述べられたのはかつてないと思います。本当に皆さんがこの宇治の観光のまちづくりについて、熱心に考えておられるのではないかなと思っています。やっぱり宇治茶じゃないといけないと言っている人、宇治茶だけではないといけないという人、源氏物語についても、今更、いや源氏物語を守らないといけないと言っている人がいる。いろいろ

るなことをおっしゃっていただいている、市民を巻き込んでいろんなことができるかなというふうに思いましたので、うまく推進できるように我々も協力していきたいと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。

どうぞ。

【北村委員】

観光協会でございます。

パブリックコメントについて、まず募集が2月1日から3月4日まで行われたということでございますが、この期間というのは宇治の観光がトリプルパンチということで、全国区のテレビなどで、報道が相当入りました。市民がもう少し関心を持っていただいて、このパブリックコメントの投稿数は相当になるのではないかなと期待をしていましたが、実際19名というのはどうなんだろうと。しかし、この意見の中には現状を的確な視点でとらまえてご提案をいただいております。これは貴重なご意見として活用させていただかねばならないと思っております。文教大学さんのほうで今回、観光シンポジウムを持たれてまして、私も出席させていただきましたけど、登壇者の方も皆さん素晴らしいお話をさせていただきまして、そこで、いろいろとご意見をちょうだいしております。こちらで提出者が21人ということで、こちらも大変貴重なご意見がございました。非常に参考になると思います。このようなパブリックコメントは市役所でやられるんですけど、配布方法とかいろいろご苦労いただいていると思いますが、ちょっと少ないのかなと感じました。ちょうど木下部長が来られておられますけど、前に、宇治市歴史的風致維持向上計画のパブコメがございましたね、これ2年前ですか。これなんかは、相当な応募数だったかと。わからなければ結構ですけど。

【木下委員】

なかなか行政のパブコメをとると、直接語りかける場面がない限り、意見を出される方というのは我々が期待するほど多くないのが現状です。宇治市歴史的風致維持向上計画のパブコメは、確か人数が12名、意見数は28件だったと記憶しております。

【北村委員】

ありがとうございます。数を参考にさせていただきたいと思います。

それと、応募の手段でございますが、Eメールで半分以上なさっている。こういうものの活用の時代になり、10年前の振興計画のときからだいぶ違うなと感じております。

そういったことで前置きが長くなりましたが、私が感じましたのは、まず、この古い番号で申し上げますと13、22、14。こちらのほうには京阪、JR駅前の観光地としてのにぎわい、風情がないとご指摘いただいております。確かに、この委員会の中でも、そういう議論をなさっていたと思います。これについては、やはりにぎわいを取り戻すということ、今後アクションを起こしていく上において、誰がやるのか。観光業者、茶業者といっても、実際は宇治で茶業組合加盟

員が 34 社。全盛時代からしますと相当組織力は落ちております。そして観光協会も 300 会員おられますが、実際に観光に軸足を置いて経営をなさっている方は、大体 3 分の 1 ぐらいかと思いません。それと観光客を相手に、地元とか観光協会を両方やっていらっしゃる方も含めると 200 社ぐらいになると思うんですけど、こういう現状でにぎわいを取り戻すと思えば、観光産業に異業種からもそこへ参画していただけるような施策、また取り組みをしていかないことには、なかなか厳しい。現状はそうだと思います。企業を誘致すると思えば看板も掲げて地域をつくる。その辺の地域の援助とか企業誘致。いろんな観光面における景観の維持や、民間を活用するといっても、そういうふうな仕組みも必要だと思えます。その辺の施策を、どのように見ていくのかということも大事なことじゃないのかなと感じております。

それから次に、先ほども申されましたように、このパブリックコメント中で 11 件ほど駐車場問題、道の駅がございます。私もそのとおりだと思います。しかし、駐車場は最近、個人さんの民間パーキングが相当浸透してきましたので、それをせっかくなら案内をするというような方法を講じる。そして大体、春と秋の 1 週間の期間にオーバーする車両を、どのような対策で整理をして、路上駐車しないようにとか、どのように渋滞解消するか。その辺を抜本的に考えていくことがまず大事なことじゃないかと思っているわけです。観光協会も、天ヶ瀬の空き地を活用させていただき、あそこからバスで移動にする、そういったいろんな方策が講じられると思います。これは官民を挙げての取り組みが特に必要じゃないかと思っています。

あとは、市民が参画される観光地づくりについて、どう思っておられるかと関心があったわけですけど、9、23 では、「市民は観光地として意識していない。いろいろやっておられますが、あまりにも身近にありすぎる。」という意見がございます。確かにそれに携わってたり生業とする方と一般市民との間には、観光というところの認識のずれは相当あると思えますよ。茶業者であっても、旧宇治の茶業者さんと、ちょっと離れたところから来られた茶業者さんでは相当意識のずれがあるのが現実でございます。観光はまちづくりの基本とも言われております。おもてなしと言っても、何から手をつけていけば良いのかと思われる方がたくさんいる。やはり、わかりやすい言葉で、もっと市民がこの宇治に誇りを持って、日々笑顔で迎えられる、そういった観光づくりを一緒にやっていく必要があると思えます。そういったことで、観光協会の役割としても、これからはもっともっとウェブを活用して情報提供、この辺ももう一度、根本的に立て直していかないといけないという責任もあると思っています。

以上でございます。

#### 【坂上委員長】

ありがとうございます。

そのほかの方がいかがでしょうか。

先ほどトリプルパンチのお話が出ましたが、このときこそ、門前町の実力が評価されるのではないかなと私は感じています。その点で、商店街で活動をされておられる方から、いろんな期待、商品開発、食事のメニューとか、そういったことが議論に出ている。その辺はご活動されていると思うんですね。この計画との関係でいかがでしょうか。

### 【古賀委員】

個店さんというのは努力されるんですね。僕もいろんなところで話はするんですけども、返ってくる答えは高齢化でしんどいという意見が多い。逆に集客の仕組みみたいなものをこちらで用意してはどうかと思っているんですね。例えば具体例ですけど、うちの店では、20センチぐらいの見返りウサギの銅像をつくっているんですね。それをなでてもらおうといいことありますみたいなことやウサギにまつわる開運の情報を書くなどしていたら、ほんとに触って喜んで帰ってくれるんですよ。写真撮ってFacebookに載せてくれたり。これは、行政のほうにもお願いできたらうれしいんですけど、そういった各お店さんが何かおもしろいものをつくろうじゃないかというときに、助成金みたいな制度を作ってもらえたら。小物をつくるのならそんなに金額要らないと思うんですよ。各お店さんでそのような物を作ってもらい、それを指定のすべてのところで全部触ってもらおうような、また、それぞれのモチーフをFacebookに載せてもらい、載せてもらったという証明を見せてもらったら、どこかで記念品をもらえるなど、そういう仕掛けづくりをする。集客の仕組みですよ。そういう感じにすればみんな頑張ってくれてくれるかなと思うんです。各お店さん独自で新しいものなどを求めることは難しい部分もあるんです。意識の問題ですね。これはすごくリアルな話で。何か理想ばかり引っ張っていてもね、結局、あまり進まないから。

### 【森委員】

パブコメ自体に年代と性別がついていたりすると、ターゲット層のイメージもわかりやすくいいのかなと思いますが、結局、商品企画であるとか、メニューの開発であるとか、適正な価格の設定であるとか、いろんな意見から、それが早急になさなければいけないということは認識されているんですね。だけど、それははっきり言って今までから宇治の中でずっと言われ続けてきたことで、でも、それを誰がやるんだろうというところ。行政にお願いしたいと古賀さんおっしゃったんですけど、多分それが駄目だと思うんですよ。今まで行政にそれをお願いしたり、補助金を出してということが、結果的にうまく回ってこなかった。例えば、古賀さんは助成金が出るからと思って一生懸命交渉して補助金をとってきたことを、地元の方や個店の方はどういうふうに思うのかというと、市がやれと言ったからやっているということになっちゃうわけですよ。そのところの仕組みがいつもミスマッチで、たぶんずっと今まできているんですね。専門委員会で出てきた意見は、やっぱり商工会議所等の、例えば企業経営の支援であるとか、中小企業の経営指導であるとか、先ほど八木委員のほうからも他の業種の事業所さんとの連携みたいな話が出たんですけど、そういった企業支援という形での仕組みと、かつ、地元団体、商店街なら商店街、あるいは組合なら組合のところとうまくマッチしないと、やっぱり難しい。それを市役所の観光部門だけが、例えば助成金を出しますからやってくださいといったところで、イベント助成金みたいなもので結局終わってしまう。だから逆に何もやらない以上にそれでしんどくなっちゃうんですよ。

### 【古賀委員】

この間も助成金の招待みたいなものがいっぱいありました。あれ、いっぱい風呂敷広げてしまっているんですけど、その申請すらできないんですよ。7商店街ぐらい集まりましたかね。みんな

ほぼそれを活用していないです、実際の話。

【森委員】

ですので、そういうことを話し合える企画場、部会をつくるとか。そういう話し合いの場の中に、例えば商工会議所さんに入ってもらって、役所も入って、本当にそれを使えるようにしていくということが大事ですね。

【古賀委員】

そういうこと。その続きにあるのですが、その申請の代行とか、事務的なことのサポート。そういう部分を手伝ってもらえたら、そういうことが難しいと思っている方でも、少し手伝ってくれるのであればやろうかなとなる。申請にかかるハードルなどを下げていく作業というのはやっぱり必要だと思うんです。僕らは今、何とか協力いただいて、申請もさせてもらって、いろいろ事業をやっていますが、やっぱり難しいと思いますよ。風呂敷広げても、できなかつたら意味がないので。

【坂上委員長】

代書屋さんが必要だと思うんですね。代書をする人が比較的第三者の視点で整備ができる。そういうときに役所の方が代書屋の役割を果たしたり、事務を補うような人材の機能を果たしていく自治体例もあります。現場にもいないし、どこにもいないから、行政の人が代わりに文章を書くということをやっておられるところもあります。国の直結の事業だったら、国の方が指導してくれますよ。事詳しく、事細かく。だから、そこまでやるかどうかだと思います。

【古賀委員】

やみくもに、無理やり助成金があるからといって、おばちゃん、おじさんがつくった企画でやったって、大して集客に結びつかないことって多いと思うんですよ。その辺の、どういうことをやればメリットがあるか、どういったことをやったほうがいいのかとか、そういう企画の部分も、やっぱり専門家のアドバイスみたいなものも要るのではないかなと思いますね、真剣にやろうと思うのでしたら。

【坂上委員長】

プロの人たちを入れないとうまくいかないんですよ。これが大切で、その都度プロの人に入り口を作ってもら。こういうやり方をやっていかないと。いろんなプロポージャーとかがいっぱい来ると思うんですよ。それに絡んで旅行代理店さんが来て、こうやりましょうと言う。でも実際は、その旅行代理店さんがいろいろ活動しても、一瞬の風で終わってしまう。プロの意見をうまく採用できるネットワークづくりがとても大切。観光協会さんなんかは、その辺に長けているので、観光協会がそういう役割を担っていただけると非常にいいのではないかなと思う。大体は逃げますけど、大学は逃げられないので、大学を入れ込むとか。そういう形で10年付き合ってもらえるようなところと一緒に進めて行く。大学も過去の研究は得意なんですけど、未来の解決策とい

うのは、やっぱり現場の人たちが一番得意なので、そこでのコラボレーションが必ず必要になるかなと思いますけど。

【古賀委員】

太閤堤の活用の件ですが。人からうわさを聞いていましてね、何かどんどん計画が立ち戻るといふか。その辺の意見を聞きたい。

【木下委員】

決して白紙に戻るとか、そんなことはなくて、機能アップの部分でどうしようかというのを考えているところでございます。とりわけ、宇治公民館をどうするかという議論も並行してある中で、あくまで、やっぱり太閤堤は秀吉が残した史跡をどう活用していくのかということがメインではありますし、そこに合わせて、まち全体を見た中で何があるべきかということは今、一生懸命考えております。一定方向が見えたら、また皆さんにもご相談させていただきたいと思っています。

【坂上委員長】

神居さんお願いします。

【神居委員】

私は委員に拝命して以降、今日で5回かかわらせていただきましたが、正直、今まで宇治の観光について大きく勘違いをしていたなという思いが多くございます。それと同時に、ある確信も生まれました。トリプルパンチということで、宇治の観光というのほもろいところがあるんだなと。景観、そして2つの世界遺産によって、多分この3月、4月等は単純に比較して昨年比で2割5分ぐらいになるところもあるかもしれません。大きく勘違いしていたのは、そのことではなくて、宇治の市民の方々の観光の意識について、ある意味非常に面白いことをパブコメをとっていただいたおかげで読むことができたなということと、まだ旧態依然の考えもお持ちだなということの確認等も含めて、大きく勘違いしていたところがございます。

実際、私は策定委員会ということで、前期アクションプランに対して、かなり具体的なことが出せばいいかなと思って、かかわってきました。その意味では、今回のパブコメを含めた意見修正で、ほばいいのではないかなと思うと同時に、一点こんなことを反映していただければうれしかなという思いがございます。

というのは何かと言うと、この策定委員会の下部組織として観光協会での専門委員会というのがございました。恐らくこの策定委員会と同数、専門委員会が開かれたと思います。この要約を見ますと、専門委員会の委員のご意見というのは、今回は特に顕著かもしれませんが、計画策定の文言をつくるためというよりも、かなりディープな世界に入ってきているんじゃないかなと。むしろ、その先の取り組みに関わっているような部分があるというふうに、私は見ています。

実際に、ほかの委員からもございましたけれども、こちらの策定計画案の最後の31ページ、32

ページなんですけれども、31 ページに関しては、先ほどご意見がありましたけれども、いわゆる、市民ではないけれども産業にかかわる方々がどう関わるかということ、これは必要になることだと思いますし、同時に 23 ページの、いわゆる今後の進行管理に向けてのことなんです。先ほど専門委員会が、かなりディープな内容になってきていると言いましたが、むしろ 32 ページの中ほどにある観光振興計画推進委員会に近いような、そんな内容の発言だなというふうに見ております。

32 ページの進行管理に向けてなんですけども、真ん中ほどの「(仮)宇治市観光振興計画推進委員会を宇治市に設置し、さまざまなご助言、計画の進行管理を行うこととします」ということについて、例えば、こちら辺に「初年度前期に委員会を設置する」など具体的な年限や、この委員会が計画とどのようにかかわっていけるかということ、もう 1 行、2 行詳しく書かれると実効性がより強くなり、委員会の性格というのが色濃くなっていくんじゃないかなと思います。市長直轄であるのか、何なのか。観光協会に直結する委員会なのか、市の何らかの部署の直結なのか、それ自体が何らかの権限を持った委員会なのか、予算まで含めたところまで入れるのか、いわゆる諮問機関なのかどうなのかというところを、推進委員会の性格や位置づけのところを何か書いていただいて、そして初年度の前期には設置するなど、実現に向けて進めていただければいいかなと思っています。

先ほどの集客ということで古賀委員から話がございましたが、来年の今ごろは平等院オープンの準備をしています。オープン以降、かなり多く人は来ていただけると思います。私たち、既にそのための仕掛けや人を引くための準備を外部でもしています。恐らくそれによって来年以降、人は来るでしょう。私は、そのあたりから宇治の観光の真価というのは問われていくんじゃないかなと思っています。おもてなしのことも含めて。宇治茶ということも含めて。世界遺産が拠点なのか。今回計画では宇治茶ということでございます。杉本委員がお見えになっておられますけど、宇治茶が世界遺産になる、なってほしい、なるための準備をする、その活動をする、それが茶業界組合の活動ですけれども、宇治茶世界遺産の拠点が宇治にあるよという PR 活動も含めて、推進委員会を含めたかわり、位置づけを 31 ページ、32 ページにはっきりと明示されるとうれしいかなというふうに思っております。

計画の後期については、専門委員が既に発言していますが、5、6 年は恐らく、人口動態を含めて大丈夫だろうと。恐らく平等院が新オープンをし、そして宇治上神社の修理が終わるところで、そうだろうと思いますので、後期のアクションプランはかなり慎重につくっていく必要があると思います。恐らく推進委員会はそこら辺もかわってくるので、そうあってほしいと思っています。

それから専門委員会等で、太閤堤のことや道の駅のことかなり意見として出してくださったと思います。私もかなり、太閤堤のこと、道の駅のこと発言してきました。これらは言ってみれば、中宇治全体が 1 つの道の駅になればいいなという思いで言っていました。ただ逆に、駐車場の問題やパークアンドライドも含めて外部資本が来て、いきなり空いている土地にそれをつくったとき、中宇治の人たち、お茶にかかわる人たちというのが、本当にどこまで危機意識を持っているのかなと。ほんのちょっとしたことで何もなくなる。宇治上神社さんと平等院と、道の駅だけの存在するような宇治観光ということもあり得るよ、ということで、私ずっと発言してきていたつもりですし、そういったことも仕掛けようと思えばできるなと思っているぐらいです。そ

んなことで思っています。

それから個人的に、M I C Eについてはかなり難しいというか、例えば、名古屋の河村市長なんかがリードジャパンの話を生懸命言っていますけども、これもかなり慎重に進めていただければうれしいかなと思います。やりようだと思いますけども。宇治は多くの観光資源と可能性を持っている。けれどもここまで脆い。今後、もし、外部資本がきたとき、ガタガタになる可能性もある。ただ中宇治を含めて宇治というのは、地の人が地場のお茶を使い、そして観光にかかわってきた。本来、非常に古くからある門前町の地域であるので、これが大切にされていくということこそが、宇治市としての方向性だと私は信じていますので、ぜひ、そんな形で進めていただければうれしいと思います。

後半のことは、ちょっと余なことでしたけれども、策定に関しては、そんなことでございます。

#### 【坂上委員長】

ありがとうございます。

杉本委員どうぞ。

#### 【杉本委員】

神居先生から、世界遺産のお話をいただきました。一昨日も世界遺産の会議をやらせていただいたんですが、ご存じのように、宇治茶の世界遺産は有形の登録を目指しております。日本料理とかは無形の世界遺産を目指されている。宇治茶の世界遺産登録について、有形と無形との差は、だいぶ差がございまして、有形で千点近く現在ございます。900 何点という、ほとんど 1,000 に近いんですが、日本で認められているのは、15、16 というような状態なんです。やはり日本は、もっと、どんどん発言して行って、ちゃんと指定してもらわないといけな。そういう意味で、宇治茶を今入れていただいております。

では、有形であるというのはどこを指すのかというところ。それは王朝文化の歴史ですね。いわゆる藤原時代の王朝文化が平等院でございまして、当然木幡あたりの松殿山荘もいわゆる王朝文化であるんです。お茶自体が入ってきたのが 800 年代で、それは神社、仏閣関係が主としての動きだった。今のお茶は、12 世紀終わりに入ってきて、それがすぐ、1220 年ぐらいに宇治に植えられているわけです。これは王朝の歴史と深く関わっていて、では、有形のものは何かと言われたら、生産面では、現状、白川あたりを考えておりましたけれども、今後のことを考えましたら、太閤堤の下流の宇治川沿いに、いわゆる東宇治の大きな茶畑集団がございまして。これは、抹茶のもとでございまして。飲料においての世界遺産は、キューバのコーヒーがあります。これは一番最初にアフリカの奴隷を連れてきて開発した宿舎だとか建物を含んだ世界遺産なんです。コーヒーそのものなんですけども、不動産はそういう開発された建物とコーヒー園がある。これは、お茶にとったら非常に新しい。お茶部類といい、かなり古くから、中国から入ってやっておられるし、まず、抹茶というものが入ってきて、それが日本だけに根付いて、もとの中国にはない、世界にもない。そういう意味も踏まえて、やはり宇治は抹茶のまちであるし、上林家であるし、当然、建仁寺、東大寺、大徳寺、表、裏、北野神社。このコア。個店のコアとの付き合いを

含めて南に来て、いわゆる平等院さんの絡みとした、平等院さんでも昔は、茶畑持ってやっておられたはずなんです。ですから、現状の茶畑は、私は、宇治川沿いの東宇治の茶畑集団にかなりかかるし、太閤堤は、太閤さんがお茶をやっていただいていた。そういう意味での世界遺産を、茶業界、私としては考えている。

この観光という問題を踏まえまして、ど素人の考えで発言するんですけど、やっぱり駅を下りたときに、何も無いというのは具合が悪い。京阪とJRの早い段階で、ここが宇治だなとわかる大きな看板、案内図、そして道順を大きく書かれないと。宇治へ来たな、入った一発目にどういう印象を与えるか。観光のど素人が言うんですけども。やはり観光に来られるなら、まず、目に入れることが必要ではないかと思う。そんなことで終わらせていただきます。

**【坂上委員長】**

ありがとうございます。

**【事務局】**

先ほど神居委員のほうから、計画の最後のところについてご意見をいただきましたが、仮称の宇治市観光振興計画推進委員会では、来年度から設置していきたいと考えています。いわゆるPDCAと形で、今回プランを立てたことを、大体1年間、こういう取り組みをしましたよといったところでチェックし、こういうふうに見直しをすべきじゃないかといったところを宇治市観光振興計画推進委員会の中でやっていただきたいなと思っています。それともう一つ。もっと実務レベル的なところで、いわゆる観光協会の専門委員会は実際に事業に携わっていただいている方々にたくさん入っていただいているんですけども、それをもう少し広げた形のをイメージとして持っている。そこではそういう連絡会議といいますか、実務的なところのお話であるとか、いろんな連携といったところを進めていきたいというふうに考えているところでございます。

**【森委員】**

今の神居委員と、事務局の発言のことは大きい話なので、そのことは後で言いますけれども、ちっちゃいことを、まず2つ。1つは宇治茶の世界遺産登録の件ですけど、2月9日のシンポジウムの際に実は生産組合さんがいらっちゃって、文教大学で大変おいしいお抹茶を接待していただいたんです。やはりその生産のほうも、今回観光ということに関して非常に高い関心をお持ちになっていて、というか、持っていただけるように、この策定委員会、専門委員会の経緯を通して、関心を持たれてきたかなという感じになっています。それで今おっしゃったような、その茶畑空間というものも含めて観光資源であり、かつ、その観光資源として活用することが、ひいては、その生産の茶業、農林のところとも結びついてくるという逆転の発想が、随分、生産組合の皆さんの中でも浸透しつつあるということなので、もう一步、ここで思い切って踏み込んだ取り組みが必要かなというふうに思います。

もう1つは、JR宇治駅のガラスケースがどうかにならないかという話は、専門委員会では出ています。例えば観光案内所をつくるということや、駅に着いたらやっぱり宇治だなという演出のことですけど、JR宇治駅をご覧になればわかると思いますが、どちらかというと山陰方面

の宣伝が多くて電車を下りたらカニの絵が使われたチラシがいっぱいというのがJR宇治駅なので。でも、それは事業者さんの事情があるわけですね。ただ、ガラスケースなんかは、実は市が持っていたり、観光協会が管理している。市の中の所管がどうなっているのかわからないんですけど、例えばそういうところを活用するとか、何か打てるところを考えないと。確かに、市民向けにあそこにあって、文化センターもポスターを張ったりということは要るかもしれないけど、それでいいのかというようなことを、もっともっと考えないと。

あと、一番大きなところは、進捗管理。先程の古賀さんの「助成金等を何とか」みたいな話もそうなんですけど、結局みんな思いを持っているのに、実際の取り組みにつながっていかなかったり、そこに有効なお金が結びつかないということが、ずっとこの何年間があったんじゃないかと思います。先ほど大学の役割ということで、坂上委員長のほうからおっしゃったんですけど、そういう意味では観光協会さん等にも相談しながら、できることはやってきたし、茶業界ともいろんなことをやらせていただきたい。ただ、この計画推進委員会なり、連絡会議というものが、提言であるとか、予算であるとか、そういったものに、具体的に踏み込んだ形での権限を持つものになるのかどうかということを、この策定委員会で、一定確認しとかなないといけない。

さっき太閤堤のまちづくりの話があったんですけど、実は私はその委員なんです。そこでは事務局との間にだいぶ意見の齟齬あって、これは言ったら新しいことなので、互いに学習中ということだと思うんですが、今までの行政のやり方だとやっぱり市が責任を持っているので、こういうことを事業として実施しました、このつくった計画はちゃんと計画どおり動いています、あるいは、こんなものができていませんと、通知表をつけるみたいなんです。作業が連絡会議なのに、推進委員会のものになっちゃっているんですね。それは行政に、今までやってきたことがないことなのではないかという部分はあると思うんです。しかし、結局市が責任を持つことなただけでも、同じ対等なパートナーとしてテーブルについて、そこで一緒に考えるだけの同等の権限みたいなものがあるのか、ないのかというところが大事だと思うんです。

私は、その太閤堤の推進会議では、計画の中身について、事業内容とかも含めて委員がある程度提言をして、それを具体的にやっていくという実効性のところまで踏み込んで行くべきだと思っているので、そういう立場で言おうとするんですけど、なかなか難しかった。やっぱりそのタイミングで会議が開かれなかったり、予算が決まってから今年度はこんな感じでいきますといったところでしたので、5月ぐらいに第1回の連絡会と言われても、じゃ、今年度のことについては、ああ、そうですかと言う以外に言いようがないわけです。

ここでもう一回、前期のアクションプランの矢印見てみると、2年か3年ぐらいで大体継続実施となっている。2年や3年たったら、次の後期のアクションプランを考え始めて、動き始めないといけないというプラン構成になっているが、そこまでこの32ページの2段落目で、覚悟が読めるのか、権限がそこまで与えられているということが了解されるのかということ、結局、行政の予算とかにお願いをし続ける古い体制が残るんじゃないかと思います。そういうことを神居委員はおっしゃったと思うし、古賀委員のおっしゃっていることも、まさにそれだと思うので、ここはもう少し、何か書き込む必要があると、私は強く思います。

【坂上委員長】

どうぞ。

【北村委員】

10の17番ですが、外国人観光客について。ほかにもご意見をいただいていると思うんですが、私も外国人観光客、特に今は台湾の方が非常に多くてありがたいです。また、最近中国の方、香港の方にも来ていただいております。やはり近隣諸国からの誘客が一番大事なことはないかと思えます。まず、平等院さんを拝観された後、対鳳庵でちょっとお茶を一服。その対鳳庵では数千人の実績が既にあります。そうした実績をもっともっと生かして、誘客においても、もっともっと外へ出て、広報、宣伝活動をやらねばならないと思っております。細々ですけど、観光協会は、毎年それを実施しております。それで、このアクションプランにも、インバウンドの対策として来年、再来年に研究、設立ということで記入されていますが、やはり現地の関係者に聞いていますと、県の知事さんは、もう何回来たよ、京都の丹後の市長さんは、毎月来られるよとか、それぐらいの熱心な誘客活動をされている。やはり宇治市も協議会を設立されるときには、その辺のことを踏まえて、市のトップも含めた組織づくりをやっていく。このように考えていただけないかなと。ぜひ、これを早く実施していただきたい。観光庁が発足してから、観光立国日本も宣言されていきましたから、出遅れて国内での競争に負けると、全然期待できなくなるかもしれません。やはりそういったことを念頭において推進していただきたいと思えます。今日は、会議所の会頭さんも来ていらっしゃるの。

【坂上委員長】

山本さん、ご意見いかがでしょうか。

【山本委員】

森先生のおっしゃっていただいた宇治市観光計画の推進委員会の話しですが、設置するのはこの25年度からされるということなんですね。

【事務局】

そうです。

【山本委員】

そういう年度を入れるということはいかがなんでしょうかね。

【事務局】

年度を入れてもいいんですが、今回の予算にも委員報酬という形で計上しておりますので、それは当然やっていくと。

【山本委員】

それと、権限のところをもうちょっと検討していただきたいと思います。

【事務局】

予算の権限は、行政にも決定までに手続きがございます。原課で要求して、財務当局との折衝があつて、理事者協議があつて、議会で議決をいただくという行為があります。委員会から意見をもらったら必ず予算化ができるかということ、そういうものでもないの。そのあたりの調整は十分必要だと思います。おっしゃるような時期の問題であるとか、その意見を受けて次どうするのかということはあると思います。

ただ一方で、今回の計画は行政だけがやるというものではなく、事業者や市民も巻き込むといった形もある。事業者さん、あるいはそういう観光の団体さんが、どんなことをやってくれるのかということも併せてやっていく必要があるのかなと思っているんです。

【山本委員】

先ほど、インバウンドの話が出てきました。これは私事ですが、去年の8月から台湾の男子1人を、ワーキングホリデーで預かっています。彼のFacebookのその友達が既にもう100人近く日本へ来ております。それも、まず今おっしゃってました対鳳庵。それが目的で宇治へ来ており、今、台湾では抹茶ブームということで大変なブームが起こっています。また商工会議所では小規模企業者の方が簡単に商品の輸出ができるということで、台湾のほうへ宇治の9社、47品目が行っているということでございます。今までの貿易の難しさはなく、日本の国内で取引ができ、翌日には日本円で現金がお店の口座に入ってくるというシステムでございます。向こうのほうはトップセールスを望んでおられる。こちらのほうで全部段取りいたしますので、市長さんあたりに、ひとつご足労をいただければと思います。

それと、そういう商品を出しますと日本にもものすごく関心を持ってくれるんです。向こうは今大変なお茶のブーム。向こうにしてはちょっと高額なんですけれども、宇治茶といえば日本の名産でよく知っているという答えが返ってきますので、ぜひ、トップセールスで市長にもひとつお願いをしておきたいと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございました。ほぼ、議論すべきテーマについては一通り皆さんからお聞きをしました。皆さん計画について、ある程度これでいいのではと感じておられると思います。しかし、最後の31ページと32ページ。誰がこれを進めるのか、どういう形でオーソライズしていくのかという点について、行政の堅いイメージではなくて、主体者が出てきたら、その人に権限を渡していくような柔軟い進め方をすべきという意見が皆さんから出てきていると感じております。私は委員長なのであまり意見を言っはいけないのですが、例えば、観光協会の役割のところが一番よく失敗するのは、観光協会は情報発信していたらいいという図式になりますと、実は単なる印刷業者に近いようなことになってしまうので、むしろ、この文章としては、「また・・・」の次のところのほうが、実は重要ではないかなと思います。ここの文章は入れ替えたほうがいいか

なと思います。観光協会さんは宣伝屋さんではない。しっかりと各関係者の方々とコミットをして、商品をつくっていくことを支援していただく。そういうノウハウを持っているところですので、しっかりとした位置づけが私は必要だなと。この文章を読むと、ちょっと何か弱いなというように思います。観光連盟さんも同じだと思うんですけども。やっぱり主体的な役割を、ちゃんと明確にする必要があると思います。

もう1つは、行政の役割のところがちょっと中途半端で、やっぱり行政はリーダーシップを持たないといけないと思うんです。そのことをあまり書かれていなくて、民間がやることをお手伝いしますというニュアンスの文章になっている。組織は推進委員会を設置しますということだが、主役が民間なら民間の組織運営をやるべきだし、市としてのポジショニング上、リーダーシップを取るべきところはちゃんととらないといけない。その線引きのところが何かあいまいな感じがする。リーダーシップと地域マネジメントとまちづくりの視点は行政がばっちり対応しますという明確な方向づけをする。広域的、公共的なテーマについては行政がしっかりやるという考え方を明確にしておかないと、先ほどありましたように、個々の業者さんではできないことが、実は観光にはたくさんあります。それぞれのテーマごとで議論をしましょうと個々の業者さんが呼びかけると、あの人嫌いだから行きたくないといったことが生じますので、やはり公平な場と機会を提供するというのが問題解決にとって、すごく重要だなと思います。

そういった計画の進行管理のところ、神居さんがおっしゃったように、この委員会の位置づけとか内容がすごく重要だと思うんですけども、この振興計画は議会の議決が必要な内容ですか。

#### 【事務局】

今回の計画につきましては、一定、本日のご意見も反映させた形で、今の予定では4月にもう一度議会にご報告させていただき、それを受けて最終的に行政として決定していくという手続になってまいります。議決事項ではございません。

#### 【坂上委員長】

では、報告だけすればいいんですね。わかりました。それがあるとだいぶ手続上の負担が変わってきますので。

それで、この進行管理。翌年に1回呼ばれて意見を言う場合があるんですけど、年に1回出て、駄目だということはなかなか言えないんですね。だから、いわゆる政策プロセスにおいて一番ポイントになるときに関係者に意見を求める会議を開催していただかないと。最後の2月とか3月にこういう予算でこんなことになりましたと会議をされても、承認する以外道はありません。やったことをペケと言うわけにもいかないから、やはりどうしたらいいかというときに、ちゃんと会議を開けるように、年に1回というのはやめていただければなと思います。

先ほどの神居委員からの時間の概念からいうと、来年の春に多分大きな波がやってくる。このときに向けて、組織をかなりリニューアルするという考え方が必要。この計画ができてても従来の組織とほとんど一緒だったら多分動かないと思います。だから、この際、思いきった組織改革をして、地元、市民、企業の参画の仕方、業界の方々のつくり込みの仕方というのを、かなり機動的にやっていく必要があるんじゃないかなと思います。そのための計画というようにしたほうが、

即効果が出る計画になると思う。初年度注目を浴びる計画になれば、いいスタートが切れて追い風になっていくと思う。それに市民の方々の関心も高まってくると思う。宇治の観光がこの計画を基に大きく変わってきたぞと、来年の今ごろ感じられるようなつくり込みでこの32ページを書いていただくと、多分ここに出席している方々は大満足なのかなと思っております。

恐らくこの計画は方向性だけを出している部分が結構あって、やっていますというポーズはとれても、具体的に来年成果が出るというところまで行くには、やっぱりだいぶ時間がかかると思います。成果を出す部分については3つとか4つとかを絞り込んで、重点的に絶対に取り組んでいくとか、そういう取捨選択、絞り込みみたいなことをやらないといけないのかなと思います。そのときに主役になる民間さんが、観光協会さん等を通じて本気になっているところと握手をしていかないといけない。やる気がないところと握手をしても、こっちはグツと握っても、向こうは全然握り返さないということがよくありますので、やっぱり握り替えてくれるところと握手をするということが、税金の使い方としても重要だろうなと思います。今、私が参加している京都府では、北部の観光にもものすごい力を入れろという副知事トップのプロジェクトが動いている。副知事はやる気のないところには金は一切出せない、やる気のあるところから金は十分幾らでも、税金を回してでもやりたいというふうに明確におっしゃっておられる。市もやる気のあるところとは、どんどん一緒にやっていくという、そういう考え方をやはりすべきではないかなと、この2ページのところで、2枚目のところで、そういう感想を持っております。

例えば、私の地元でも相談に乗っているんですけど、実現できない計画は、書くのをやめましょうと最初に言いました。やれることだけ、みんな集まってやりましょうと。そしたら、ものすごく早いんです。有名な出身者を観光大使に3人指名する、この土曜日に1,000万円かけた情報誌ができるんですけど、これも全国で販売できる情報誌をつくりましょうとか。もう、できることだけをチョイスして、余計なことは一切しないというやり方でやっているところもあります。本計画では、そのところはしっかりと、目利きしながら、ぜひやっていただいたらなと思います。

私ばかりで恐縮でございます。最後に、最近感じていることを、ちょっとだけ申し上げたいと思います。

観光は、人を集めることも大切ですが、実は住んでいる人がすごく大切だなということを、最近は思います。宇治市の市民の人が、どれだけ豊かな生活をしているか、それがベースにないと。住んでいる人が四季折々に、どういう宇治市の楽しみ方をしているのかということが、イコール観光につながってくる。それが、ここ5年とか10年じゃなくて、100年ぐらい続けているもの。それぐらいのものに税を投入するという考え方が、私はすごくいいんじゃないかなと思います。例えばそれが風景であったり、文化的な活動であったり、施設であったり。宇治というのは多分これからも千年以上守り続けられないといけないし、平等院さんも世界遺産も、これは絶対に観光の大きなコンテンツだと思います。インバウンドのお話しをおっしゃっていましたが、PRしなくても来てくれるんですね。それは、なぜかということを考えないと。それは100年、200年を超えた価値を宇治市が持っている、そこに多分、琴線が触れられて来られますので、これを大事にするということが、まず観光にとって一番重要ではないかなと思います。逆に、駅前には殺風景でも本当のものがあつたら大丈夫なんですね。駅前で勝負したら駄目だと私は思っています。

ただし、駅前はおもてなしなので、きれいにはしておく必要はある。しかし、やっぱりしっかりとした文化的な核、そこに住んでいる人たちの心みたいなもの、そこが一番重要だろうなど。これを忘れると本末転倒になってしまいますので。ここ半年間ぐらい私の考え方が変わってきて、呼んだらいいということでは決してないと。呼ぶ前に、まず自らをちゃんと確認することが必要ではないかなと感じております。

ほぼ時間が来ておりますが、少しこれに絡めまして、ほか、まだ余裕がありますので。

#### 【森委員】

坂上委員長がおっしゃったことと同じですけど、宇治市のこの観光振興計画には観光まちづくりという言葉で副題がついている。市民参画のことも、今回のパブコメでやっと納得して入れてもらえたという感じですけど、それがなかったら結局、何のために観光をやっているのかわからない。32ページのところの話に戻ると、結局、市役所の行政の中の意識自体が観光の担当がやる仕事は、観光事業者、商店街、公共事業者に観光関連担当課を入れて連絡会議をつくるというところで止まっているという感じに読めるんです。そうではないと願いたいんですけど。私は最近、観光というものは市民のやる気のスイッチだと思っています。つまり、何となくいろんなことがある中で、やっぱりここに住んでいて良かったなとか、やっぱりこの地域っていいなということを見たり、何か前向きになれる良いスイッチだと思うんです。ただ、スイッチを押すときに、やっぱり宇治市さんの中で、観光というものをどう位置づけていくのか。総合基本計画の中でまちづくりは言っているんだけど、そこが観光と今までうまく連動してこなかったことが、やっぱり課題としてははっきりとあると思います。まちづくりの観点から、例えば市内の観光部署、観光課だけではなくて、教育のことも、市民参画ということで考えた市内会議みたいなもの、推進委員会を設置する中でもう少しきちんと位置づけていただいて、つくっていただく。宇治市の中で観光事業者にお金を出すのではなくて、観光にお金を出すということは宇治市の未来をつくっていくことなんだという位置づけを、もうちょっと何か明確に書き込んでもらえないのかなと思うんですね。このままいくと、この中の体制も変わらず、結局これはつくったけど・・・みたいなことが繰り返されるような気がして・・・情報発信の面に関しても、そこは特に重点的にやるんだとか、何かそういうのが見えないんですよ。だから、そこをもう少し明確に、ここに1行でもいいので、市内の体制を整備とか、そういうのも含めて書いてもらいたい。実効性を高める行政組織の改革的な部分、それをちょっと入れてもらいたいなと感じています。

#### 【坂上委員長】

モデル的には市内横断型の観光連絡調整会議みたいなものを作って、その長には部長を超えたクラスの人をつけてくださいと私はいつも申し上げていまして、京都府に観光政策監をぜひつくってくださいと言いつくってもらいました。これは、部長間の連携をとれる実力者を政策監に充ててもらって、市長と直結で話ができる人に観光の総合的責任者になっていただくというもの。そういう考え方があれば非常にスムーズ。商店街の方が市長に意見を言うのに何人も通って時間がかかってということをやっていたら動かない。そういう横断的に動けるポジショニングをつくるというのは行政では結構有効ではないかなという。

【森委員】

ただ、政策監では予算権限がないので、結局、そこからもう1回下ろして実行するときに、やっぱりすごい問題が多いと思うんです。宇治市であれば、そこまでしなくても部長級と商工観光課で何ができるのかといたら、権限をもっと強化してきちんとやっていく。専門家を入れていくということだと思うので、それがここではわからない。どんな形がいいかは、また検討すればいいと思うんですけど、そういった行政組織の改革ということ、ここに入れてほしいなど。それは、いろいろ意見があると思うんですけど。1つの例として。

【坂上委員長】

宇治市なりに、やり方は検討いただいたらいいかなと思いますが、計画ができたから少し仕組みを変えましょうというのは統一的な意思としてありますので。おそらく、こちら側にお座りの方から意見を求めたら、どういう仕組みになればいいのかというのが出てくるような気はいたしますけども。今ここでお答えをしてくださいますと、ちょっと難しいかと思えます。今日は推進の仕方について、本質的な議論がかなり出たのではないかなと感じております。

そのほか、まだ1人、2人、ご意見お伺いする時間ございますけど。神居委員はいかがですか。

【神居委員】

むしろ、そこまで行かなくても、議事録にそういったことが残ればいいかなぐらいに思っていたんです。それだけでもこの会議の大きな意味があったかなと思っていたので。ありがとうございます、まとめていただきまして。

この会議で全然関係ないことを林さんに質問してもいいですか。というのは、実は昨日、今日に宇治の市民、市内の各戸に府のほうからお手紙というかチラシが入ってきたんです。返信用のはがきがついているものです。例の塔の島の桜の伐採のアンケート。あれの意味と、どういう内容で、どういうことを求めているんでしょうかね。

【林委員】

国からですかね。多分そうだと思います。この間、いろいろ新聞にも載っていましたね。そういうこともあって、地元の方のご意見もある。場所は国交省のものなんですけども、塔の島自体の中に宇治公園という形で府管理の公園があり、その分関係者ということもあるんです。いろいろ、市民の方の声が聞かれないまま進んでいるんじゃないかというような意見もある。国交省さんとしては塔の島のことだけじゃなくて、安心安全という観点から宇治川全体の改修の計画として、そういった説明もさせてもらっているというようなこともあったようにお聞きいたしている。とはいうものの、アンケートという形で市民全体の方の意見を聞きましょうということで出されたものだというふうにお聞きしています。

【神居委員】

あの事業の計画自体は、特に変わるわけではないわけですね。

【林委員】

多分そうだと思います。ただ、そこはちょっと申し訳ございません、国交省さんの事業なので、どうこうということは言えないんですけども、やっぱり桜の伐採の問題等もあって、では、どうしたら一番いいのかというようなことの参考にされるためにアンケートをされているんだろうと理解はしておるんですけども。

【神居委員】

申し訳ございませんでした。観光に関係しないことで。

【森委員】

観光との調整というのは、されないんですか。私も、あれはすごく不思議で、どういう手続で、あのアンケートに答えたら、どこにどう行くのか全然わからない。

【神居委員】

意味が全然わからないから。

【森委員】

市との調整はないのですかね。あれ、観光の部局とは何か関わりはあるのか。市政だよりに挟んだから、ありますよね、こちらにも。出しても、どこに届くのかわからないし、観光振興計画と、どう関連するのか全然わからない。

【木下委員】

市との関係でいきますと、全体の事業調整は宇治市でいうと建設総括室というところが所管をしている。私ども整備部としては、景観の面で絡んでおりますので、その情報なんかは入れさせていただいておるところです。あくまで、あのアンケートというチラシ自体は、今回の塔の島の工事がスタートし、現状の景観が大きく変わったことに対する新聞等の記事を踏まえて、まだまだ市民の方に何をやっているのかという情報が不足しているのではないかという反省がありましたので、まず国交省さんから宇治市のほうに、こういうチラシと、チラシだけでは一方通行になるので、アンケート形式のものを配れないかというご相談が寄せられて、配り方として市政だよりを月に2回配布していますので、そこに挟み込みをさせてほしいという願いがあったということです。あくまで配っておられる主体は国土交通省の淀川河川事務所なので、アンケートの行き先も淀川河川事務所さんに行くと。その結果については、また景観構造検討委員会等、向こうの組織もでございますので、そこで議論をされた中で、我々にもまたご報告いただけるのかなというふうに思っているところです。

#### 【4.その他について】

##### 【坂上委員長】

よろしいでしょうか。それでは、議論については、これで終わらせていただいて、次第の今後のスケジュールについて、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

##### 【事務局】

先ほども申し上げましたが、本日いただいた意見を集約し、皆さん方のご意見を反映した形で、最終的には皆さん方と、委員長とも調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それを、また来月開催される予定の議会に報告いたしまして、行政決定としていきたいと考えています。我々のほうも、この間いろんな専門委員会等、会議の中でいろいろ勉強させていただきました。実のところ、計画をつくるのがいっぱいいっぱい状態でした。具体化に向けてはこれから行政の役割はどこまでやるのか、例えば費用負担の面についても含めて、もう少し研究して実現していきたいと考えています。4回目の委員会を開催させていただいて以降、どちらかという計画を実現するのにどうしたらいいかという気持ちでして、ぜひとも計画に終わらせることなく実現していきたいという気持ちで臨んでいきたいと思っていますので、また今後ともご指導等、よろしくお願いいたします。

#### 【5.閉会】

##### 【坂上委員長】

他、何かございますでしょうか。

では、この計画策定委員会、皆さんから熱いご議論を最後までいただきまして、本当にありがとうございます。委員長としては皆さん方のご意見を求めるだけでございますので、事務局のほうが大変だったと思いますが、この計画があくまでスタートでございますので、まずは初年度、スタートダッシュできるように、ぜひ力添えをいただきたいと思っております。

この訂正については、また各委員にご理解を、ご説明なり資料を出していただくということでよろしいでしょうか。リテールについては私と事務局のほうで一任をさせていただくということで了解をしていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「よろしい」と呼ぶ者あり〕

##### 【坂上委員長】

ありがとうございます。それでは本日、お忙しい中ありがとうございました。

了